

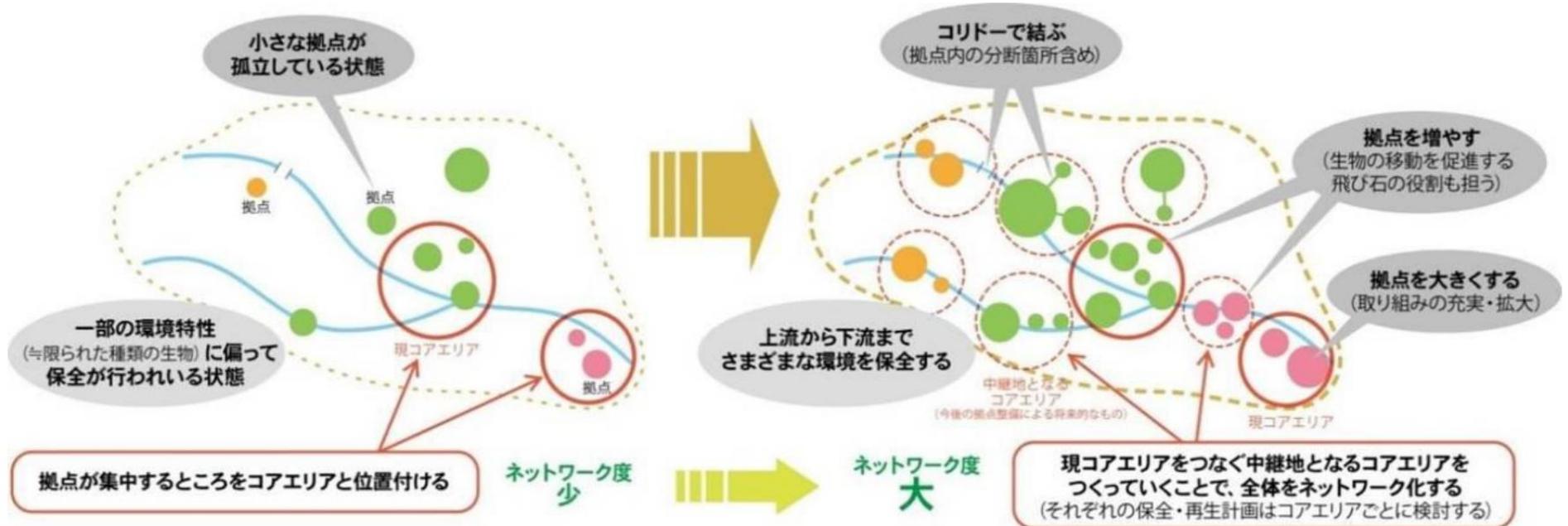
河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて

【生態系ネットワーク(エコロジカル・ネットワーク)】

生物多様性が保たれた国土を実現するために、保全すべき自然環境や優れた自然環境を有している地域を核として、これらを有機的につなぐ取り組み

- 形成の目的
- ①生態系・生物多様性の保全・再生(自然環境)
 - ②地域振興・経済活性化・流域治水(社会経済)

①生態系・生物多様性の保全・再生(自然環境)



生態系ネットワーク構築のイメージ

出典:「遠賀川流域における生態系ネットワーク形成の促進に向けて(案)」(平成29年8月遠賀川流域生態系ネットワーク検討委員会)

河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて

②地域振興・経済活性化・流域治水(社会経済)

03 地域の潜在的な特徴を活用

多様な効果を発揮

自然再生



防災減災



地域振興

生態系ネットワークの形成は、流域の住民、農業関係者、NPO、学校、企業、自治体、河川管理者など、さまざまな主体の連携が欠かせません。それぞれの取組ひとつひとつが、自然環境を豊かにするだけでなく、治水、地域への愛着の醸成、経済の活性化など、社会・経済上の効果につながっていきます。

ことばの解説

- 【江 え】水田内に設けられた築堤りの溝。農作業のため田の水が落とされた時でも、ここには水があるため魚類が生息できる。
- 【エコツーリズム】地域の自然環境や歴史文化を活かした観光。その価値の普及で、地域の活性化とともに自然環境の保全などがさらに進む。
- 【魚道 ぎょどう】障害のある場所を魚が行き来できるようにするための施設。
- 【砂礫河原】砂や小石からなる河原。特有の植物、昆虫や鳥が生息。
- 【冬期滞水(ふゆみずたんぼ)】冬に田に水を張ること。カエル類の繁殖場やガン・カモ・ハクチョウ類の休息場所となったり、雑草が落ちることを抑えたりする。
- 【樋門 ろもん】川瀬とまち側の溝の水流調節のために付けられた施設。落差があり魚が行き来できなくなっていることがある。
- 【泡水地・潤野池】洪水時に川の水を一時的にためて下流に流れる水の量を減らすための場所。
- 【ワンド】河川敷の池状の入り江。魚の繁殖場所、洪水時の避難場所にもなる。



期待できる効果
 地域の特産品を使用した
 商品ブランドを展開
 地域の農産物や加工品のオリジナル商品化や、自然環境に配慮した商品等のPRが可能に

期待できる効果
 水辺の生物多様性が
 豊かに
 生きものや自然が豊かになり、大型水鳥なども親しみやすい環境に

期待できる効果
 災害を未然に防いだり
 被害を減らす
 池や沼、農地、森などが各所で雨を受け止め、洪水の発生を抑え、まちの安全性を高める

期待できる効果
 自然が身近な
 愛着のもてるまちへ
 日々の暮らしに自然があることで、地域への愛着や住環境としての満足度を高める

必要取組

期待できる効果
 里山の再生で
 魅力ある景観に
 かつての里山の景色が甦り... 地域の風情を大切にすることで未訪者や住民の注目を集める

期待できる効果
 生きものや自然を活かした
 エコツーリズム
 大型水鳥類や地域の生きものなど、自然を活かした観光で、国内外の来訪者の集客へ

期待できる効果
 自然体験や
 環境学習の場へ
 住民や学校、企業などの水辺利用が増えることで、自然環境や地域への理解を深める

河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けて



流域治水の取組においては、自然環境が有する多様な機能をいかすグリーンインフラの考えを普及させ、災害リスクの低減に寄与する生態系の機能を積極的に保全又は再生することにより、生態系ネットワークの形成に貢献すること。

【特定都市河川浸水被害対策法等の一部を改正する法律 附帯決議(一部抜粋)】

◆生態系ネットワークの形成により、生物多様性の確保を図り、人と自然との触れ合いの場を提供することで、地域に社会面・経済面において様々な効果をもたらすことが期待される。

第5回 越後平野における生態系ネットワーク推進協議会 概要

- ▶ 越後平野において、トキ・ハクチョウをシンボルとして、その安定的な生息に向けた地域間の情報交換や様々な活動を通じて、生態系ネットワークの形成を推進するとともに、自然の価値や魅力を活かした地域の活性化を目指すことを目的として、令和元年7月に「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会」を設立

【概要】

■開催日時

令和6年7月31日(水) 15:00~17:00

■プログラム

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事
 - (1)規約の改定(案)
 - (2)前回(第4回協議会)の報告
 - (3)生息環境検討部会の開催報告
 - (4)自然環境活用部会の開催報告
 - (5)行動計画骨子(案)の意見照会結果について
 - (6)今後のスケジュール(案)
4. 閉会



第5回協議会の様子

【前回(第4回協議会)の報告】等のご意見

- ・生態系ネットワーク形成事業は、あくまで生物を主眼においているが、流域の治水や経済の活性化も含まれるものである。
- ・災害リスクのある地域は、リスク部分のみ強調されがちだが、恵みもある。大型鳥類が生息できる環境であるという理解と、それらを受け入れる地域性を育むことが、若い人たちに自分たちの地域の良い所として認識されるものになっていくと思う。
- ・佐渡市は市長がトキの効果を理解しながら市政を引っ張っていると思う。恵みはその地域の人材を育むことにもつながるので、越後平野の市町村の首長さんにも直接協議会にはいっていただきたい。
- ・重要な拠点が見えてきたら、その場所をOECMという形で認定して30/30のなかに組み込んでいくような展開を、市町村、県に意識していただき、横串でつながっていただきたい。

【部会の開催状況報告】等のご意見

- ・潟フェス2024は、生態系ネットワークが地域活性に結びつくということが住民の皆様にご理解いただける内容であった。また、関係自治体と連携した取り組みの一步を踏み出したという意味で意義が大きい。
- ・自然環境の保全や地域づくりなど、縦割りではなく、各行政が連携し統合して進める方が効率が良い。
- ・パネル展示については、協議会の場に展示して委員の方に内容を揉んでもらったり、JRや航空会社に働きかけて展示してもらっても良いのでは。PRしていただけるような組織に加わっていただき、みんなで情報発信していくことを考えていく。
- ・ハクチョウのいる景色など、観光資源として魅力的であることを理解し、多くの方に情報発信されることで、活気づくと良い。
- ・福島潟モデルプロジェクトで実証実験を行ったが、新潟の魅力の伝え方について、もう少し検討が必要なのではないかと思う。
- ・他地域の生態系ネットワーク事業で、コウノトリやタンチョウを指標にした取り組みを行っている地域で活動されている方々との意見交換はえちごエコネットに寄与すると思うので、そのような機会があれば、協議会関係者にはぜひ参加いただきたい。
- ・新潟観光コンベンション協会では観光庁の予算がつき、事業化に向けた取組が始まる。潟の恵みである、ヒシやハスの実の利活用の検討がされているので、多自然川づくりの一環で、潟の恵みを創出・保全する考え方も必要になってくるだろう。
- ・指標種の意識付けが県民にできていないなかで、意識向上をどのように進めていくかについて議論できれば良い。

【行動計画骨子(案)の意見照会結果について】等のご意見

- ・河川事務所が自分たちで管理している箇所ですら実際に行うような取り組みを、もっと踏み込んで提示した方が良い。
- ・ガン、ハクチョウ、トキを指標にしながら、彼らにとっての必要な生態系ネットワークを考える観点で、川づくりなどの事業、農地や森林との関わりなどについての戦略的な見通しが必要だと思う。
- ・農業担当の方から、当該事業に呼ばれた意味が分からないという意見について、連絡調整会議の中で説明していただきたい。
- ・越後平野の中で農地がどう関わっていくのかがビジョンとして見えないので、具体的な話をお互いにしていければいいと思う。
- ・議論は室内だけでなく、現場で起こるものでなければならないと思うので、市民向け公開シンポジウムを開催し、首長さんに参加いただきながら今後の目指す方向を可視化しても良いのではないかと。
- ・阿賀野川中流域は日本屈指のハクチョウの飛来地。環境と利活用のポテンシャルをあらためて再認識するとともに、鳥類の生息に影響がない形で阿賀野川のワイズユースに取り組んでいただきたい。
- ・道の駅などを活かして、地域を盛り上げていくことも良い。